

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

提出日 令和 年 月 日

派遣大会・事業名	令和7年度 第36回関東高等学校バスケットボール新人大会
派遣期間	2026年 2月6日(金) ~ 2月8日(日) *前泊含む
報告者	有坂明子・平山智章・藤木千仁
派遣先	千葉県木更津市・君津市

派遣スケジュール

2月3日	審判会議
2月7日	1回戦 2回戦
2月8日	準決勝 決勝

大会参加審判員(本部・指名審判員のみ記載)

本部審判員	平原勇次氏・梶崇司氏・一色渉氏
指名審判員	北島寛臣氏(埼玉県)・本間さとみ氏(東京都)・小澤朋克氏(群馬県)

審判会議 ミーティング内容(共通事項・強調された点など)

- 1、一般社団法人千葉県バスケットボール協会 大野健男 専務理事のご挨拶
- 2、一般社団法人千葉県バスケットボール協会 中嶽希美子 審判委員長のご挨拶
- 3、関東バスケットボール協会 平原勇次 審判委員長のご挨拶
- 4、指名審判員レクチャー(以下詳細)
- 5、その他今大会の連絡事項

OS級審判員になるためにチャレンジしたこと / 本間さとみ 氏

「自分自身を知ることの重要性」

・自分自身がS級審判員になるのに7年間かかった。特に凶太いメンタルがあるわけではなく、途中で辞めてしまおうかと思うこともあったが、審判が嫌いになったわけではなく、何よりバスケットが大好きであったので、BリーグやWリーグなど、バスケットを身近に観れる場に足を運び、審判目線で観戦してみた。また、自分自身を知るために、自分のスカウティングを始めた。オン・ザ・コートで感じたこと、映像で見てわかる自分の癖などを知り、それらは根拠を持っていないからではないかということがわかった。

→POCとRSBQをしっかりと確認することを徹底した。

「素直な心と揺るぎない根拠の構築」

そこから、コミュニケーションをとる際にも、少しずつ変化が感じられ、しっかりと「根拠」を持っているから何を言われても動じなくなった。更に、プレイヤーはどう感じたか、ベンチからはどう見えたかなど、相手の話を素直に聞くことができるようになった。

→判定の「根拠」は自分を守る盾となり、「素直な気持ち」が信頼の架け橋になる。「根拠」があるから決断でき、「素直」になれるから強くなれると感じた。

○審判+チーム指導(二刀流) / 小澤朋克 氏

・審判を始めたきっかけは、教員であったし、やらなければならないと思ったからである。当初は、上を目指す気持ちもあったが、チームもあり難しく感じることもあった。

「審判+チーム指導(二刀流)」

・審判とチームを別に考えるのではなく、「二刀流」で取り組むことにした。仲間(家族・職場・審判)と共に、様々なことに取り組んだ。審判仲間のチームと練習試合を組んだり、講習会を開催したり、関東大会、全国大会に多く参加させてもらったりした中で、自分自身の甘さであったり力の無さを感じ、頑張らなくてはならないと思った。

・関東では非常に高いレベルのゲームが多くある。S級審査にもゲームが使われ、地方からは自費で参加するなど研鑽している方もいる。

→多くのゲームがある中「吹いて満足」になってしまうこともあるのではないかと。担当するゲームの前に準備を整え、振り返りの徹底を行うことがレベルアップの鍵になるかもしれない。

「自分自身が変わったこと」

・マジックタイムなどのクロック関係/ゲームフローの確認(ファウルログなどを付けたとよい)/ベンチ・プレイヤーコントロール(目を合わせる・コミュニケーション)/メカニクス(目的を持ったポジションアジャスト)/プレイコーリング(吹き急いだり、ファウルを探しにいったりしない)/プレゼンテーション(デリバリースキル)etc.

○審判と指導者の関係性について / 北島寛臣 氏

・審判活動→チーム指導へ(外でハイレベルなゲームを経験し、最新のバスケットやルール、技術を指導へ生かす)

・チーム指導→審判活動へ(プレイを見る目、バスケット観、技術の理解を判定へ生かす) +仲間づくり

・大会に臨むチームと審判の準備はどのくらい?

過酷な練習や合宿を乗り越えたチーム/研修や経験等を日々重ねた審判・・・お互いリスペクトの気持ちをもつ

→自分ができることを与えられた時間、全力で謙虚にやり続けること!

・チームは新人大会の判定基準をもとにチームづくりを始めていくため、今大会の判定基準の重要性が問われる。関東バスケットのレベルアップのためにも審判の判定基準をしっかりと示していくことが大切!

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 8年 2月 日

担当試合

試合日	2月7日(土)
回戦 カード 点数	女子1回戦12:00開始 土浦日本大学高等学校(茨城)90 vs 50県立高崎女子高等学校(群馬)
会場	君津市民体育館
審判員名	CC有坂明子 U1若菜有貴(千葉) U2滝田啓人(千葉)
審判員主任名	半田優美(千葉)
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスではセンターサイドの判定整理と、メカニクスにおけるカバーエリアの確認をクルーで共有し臨んだ。

試合序盤から土浦日大が主導権を握ってゲームは進行するが、両チームともターンオーバーが散見され、特にドライブからの展開においてセンターサイドのアングル確保とプライマリーの明確化が重要となるゲームであった。後半に入り高崎女子もオフェンスのリズムを取り戻し得点につなげたが、土浦日大のディフェンスが効果的に機能し結果として点差を詰め切るには至らなかった。

試合を通じて大きなゲームコントロールの乱れもなく、クルーとして一定の対応はできたものの、プレー強度が上がった局面においてローテーションの判断が一步遅れる場面もあった。目まぐるしく選手交代があるなかで、コンタクトの質や強度が変化しやすく判定基準が曖昧になるとゲームコントロールに影響を及ぼすため、判定の軸を明確にすることが重要であると感じた試合だった。

担当試合

試合日	
回戦 カード 点数	
会場	
審判員名	
審判員主任名	
試合振り返り	

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

新人大会は新チームがスタートしてまだ間もない大会という特性上、戦術を含めた選手起用も固定しておらず、発展途上の部分が試合の随所に見られました。そのため、チーム状況や選手交代の頻度によりゲームのリズムや、プレーの強度が目まぐるしく変化し、その点において非常に難しさを感じたレフェリングとなりました。

特に高校生のように選手の技術や判断力が成長段階にあるカテゴリーでは、私たち審判員(クルー)の判定基準の曖昧さが、そのままプレーの迷いにつながり、結果として試合の質を下げってしまう場面も多くなると考えます。その試合の判定基準を示し続けることで、選手は何が認められ何がファウルになるのかを理解しやすくなり、その後のプレーに良い影響を与えることができると考えています。

今大会においても、判定基準の一貫性が選手やコーチからの信頼感を得て、安定したゲーム運営につながると感じる場面が多々ありました。試合の序盤で判定基準を示し、試合を通して一貫性を保つこと、そしてその判定基準をクルーで共有し続けることが大切だと感じました。さらに選手の成長を見据えた判定や、選手やコーチとのコミュニケーションも含めた私たち審判員の態度(親しみやすい態度 and 毅然とした態度)を意識することで、選手ファーストの視点を持ったレフェリングができると考えています。

今大会で感じたことや得られたことを県内でも共有し実践していきたいと思ひます。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 年 月 日

担当試合

試合日	2月7日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦10:30開始 土浦日本大学高等学校(茨城) 67 vs 60 埼玉栄高等学校(埼玉)
会場	木更津総合高等学校
審判員名	CC:小澤朋克(群馬) U1:平山智章(栃木) U2:佐藤拓哉(千葉)
審判員主任名	大和田 雅人(茨城)
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、3人で協力するところの共有とプレイコーリングについて(審判会議のレクチャーでもお話いただいた、吹き急がない、無理に探さない)というところを重点的に確認した。
 ゲームについては、両チームともインサイドを主軸としながらも、アウトサイドからの得点力もあり、最後まで拮抗したゲームとなったが、終盤までインサイド・アウトサイドともに安定していた土浦日大が勝利となった。
 反省では、私のファースト・コール(ゲームのファースト・コール)について、接触はあるものの、その責任や影響については、白黒つけ難いケースを吹きにいてしまったところから始まり、テンポセットが少し難しくなってしまった部分があるとお話いただいた。両チームとも、我々の判定にアジャストしてくれたものの、ベンチやプレイヤーからのリアクションに対しては、テクニカルファウルが必要であった部分と、そうならないための判定の積み重ねが重要であるとお話いただいた。
 コート上で、自分自身も感じていたことであり、判定の精度を上げるための研鑽を、更に積んでいく必要があると感じた。

担当試合

試合日	2月7日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦13:30開始 習志野市立習志野高等学校(千葉) 76 vs 61 新島学園高等学校(群馬)
会場	木更津総合高等学校
審判員名	CC:若林哲(埼玉) U1:平山智章(栃木) U2:清水倫人
審判員主任名	猪股 祐介(千葉)
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、基本的なメカニクスの確認と、トラブルに繋がりそうなケースについての対応などを中心に確認した。
 ゲームについては、1Qから終始習志野高校が大量リードする展開となり、新島学園高校も最後まで粘り強く戦ったが追いつくことができずに習志野高校が勝利した。
 反省では、セカンダリでコールしているケースについて、ゲームの中で必要なコールであるが、吹くタイミング(ケイデンス)や、プライマリのレフリースが見えているのか(ブラインド)どうかも含めた上で決断できるとなおよいのではないかとお話いただいた。
 自分自身そこまでの確認はできていなかったもので、今後改善していきたいと感じた。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回の関東新人大会の審判会議のレクチャーでは、自分自身にも置き換えられるお話がたくさんあり、今後の取り組みに活かしていきたいと強く感じた。また、千葉県の大野専務理事からも励ましのお言葉をいただき、今まで県内で取り組んできたことは正しかったのだと改めて感じ、今後も継続して取り組むと同時に、新たな課題の克服に向けて、精進していかなければならないと感じた。
 私自身、特にファーストゲームでは、県内ゲームでの反省を活かすことができなかった。レクチャーでもお話があったように、試合に臨む準備などを徹底していきたいと感じた。
 今大会の開催について、準備から運営までご尽力いただいた千葉県バスケットボール協会の皆様、千葉県審判員の皆様、また、今大会への派遣に際してご配慮いただいた、梶審判長をはじめとする県内審判員の皆様に、心より感謝申し上げます、派遣報告とさせていただきます。

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 年 月 日

担当試合

試合日	2月7日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦9:00開始 拓殖大学紅陵高等学校(千葉) 75 vs 81 八王子学園八王子高等学校(東京)
会場	木更津総合高等学校
審判員名	CC 一色渉(茨城) U1 長沢弘基(群馬) U2 藤木千仁
審判員主任名	北島寛巨(埼玉)
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、主に自分の感じたことをクルー間で遠慮なく共有し、スムーズなゲーム運営をしていく旨、申し合わせた。

ゲーム序盤から留学生同士のマッチアップにおいてハードなコンタクトが頻発し、早い段階での判定基準の明確化が必要なゲームであった。感情が態度やプレイに大きく表現され、判定やコミュニケーション等で対応した。その中で、序盤からオビアスなコンタクトを中心にファウル判定を積み上げながら自身の判定を表現できた一方、相手プライマリーエリアに笛を入れてしまったケースがあった。

担当主任のコメントでは、自身のプライマリーを中心にポイントとなる現象を多く決断できたことは評価いただいたものの、相手のプライマリーエリアで起きたことを判定することは、現象のプロセス(やり合い)の把握が薄くなるリスクがあるため、そのプロセスを知っておく上で判定する必要がある旨ご指摘いただいた。メカニクスにおいては、常に動いてポジションアジャストを続け、プレイのフィニッシュの時点では待ち構えた状態で判定する重要性をお話いただいた。

試合日	2月7日(土)
回戦 カード 点数	男子1回戦12:00開始 正智深谷高等学校(埼玉) 66 vs 77 つくば秀英高等学校(茨城)
会場	木更津総合高等学校
審判員名	CC 松永航平(東京) U1 横山崇斗(千葉) U2 藤木千仁
審判員主任名	下島拓(神奈川)
試合振り返り	

プレゲームカンファレンスでは、ベーシックなメカニクスとチーム情報の確認を中心に行った。

ゲーム序盤にクルーの判定に対し、コーチから大きなアピールがありその対応を求められたが、うまく対応ができず、その直後から自身の判定に対しアピールが続いた。コーチがストレスを感じていることを把握しながら、判定・デリバリー・コミュニケーションなど何かしら自身が表現する必要があったと振り返りを行った。

担当主任のコメントでは、そのアピールに対しクルーで対応する必要があった旨、ご指摘いただいた。また、1試合を通して、両チームは強度の高いバスケットを展開するため、イリーガルなコンタクトに対し、もう少し笛で整理しても良かったのではないかとご指摘いただいた。

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝えたいこと

今回、新人大会という特性上、そのコンタクトがリーガルであるかイリーガルであるかという点について、選手自身の認識が十分でないと感じられる場面が多く見受けられました。そのため、いつも以上にクルー全体で判定基準を明確に示し続ける必要がありました。最終的に頼りになるのは「自身の判定力」であるということ、改めて実感させられました。

また、判定が審判において最も重要な要素であることを前提とした上で、ゲームを円滑に進行させるためには、選手やベンチとの適切なコミュニケーションや試合の流れを把握した対応など、判定以外の面におけるゲームマネジメント能力も求められると感じました。

最後に、今大会の派遣に際しまして、準備より運営までご尽力いただきました地元千葉県の皆様、ご配慮いただきました梶審判長はじめ栃木県の皆様に心より感謝申し上げます、ご報告とさせていただきます。